

## 編集者のことば

ようやく、ほんとうにようやくのことで、この都市研究報告も、本格的な定期刊行物に姿を変える機会が与えられることとなった。念願の都市研究センターを発足させることに大学の方針が決定し、そのための準備が進められており、順調にゆけば、来る4月からそれが実現し、それに伴ない、この都市研究報告も充実する機会むしろ責任を与えられる手筈となったからである。

ただし、新しい都市研究センターは、その組織の点でも、また実質的な研究計画遂行の点でも、大きな困難を多様にかかえていて、その前途は、約束されているなどと言えないことは勿論、むしろきびしいと言わねばならぬ状態であり、したがって、期待される定期刊行物も、その発足、発展とも、容易なことではない。だが、もとより、希望と可能性はあるからこそ今回の新制度はうまれるのであり、さらに、現在の本学のあらゆる状況が将来の発展に不利となりつつある時、この壁を打破る一つの最初の試みとして、この新制度は成功させねばならぬという、重い課題がそこに託されている。と言うべきだろう。

現編集委員会は、その課題に答える準備を整えるつもりで、過去3年間、現在の形式で研究報告等を発表してきた。願わくは、その経験がつぎの飛躍のために役立つものであってほしい。それが足りなかったところは、つぎの強力な編集者がみごとに補って、りっぱな定期刊行物を作りあげてくれることを、期待するほかない。

読者には、この不十分な形のものを利用して下さったことを感謝し、都市研究ひいて次代の世界の観察と分析のために、次年度から現れる新しい企画に、忠告と応援を願ってやまない。

1977年3月

編集委員長

千葉正士